

■第2部

インタビュー・ダイアログ ● (10:30～11:30) 生涯現役の方法—日々の実践と精進

登壇者 ● 永井 丹穂子

(「NPO車椅子レクダンス普及会」理事)



障害者や高齢者がダンスを楽しめる社会環境を実現しようと「NPO車椅子レクダンス普及会」に入会、以来11年、現在、理事・下関支部長として韓国を含む各地のダンス指導に参加している。一方、下関を拠点として障害者・高齢者の自立・介護予防を主たる目的とする「リハビリサークル再起会」を支えて16年、現在代表を務め、毎週定期的に学習会、交流会、見学・視察、レクリエーションなどの活動を企画・展開している。

登壇者 ● 大城 節子

(沖縄県婦連会長)



昭和60年代から数少ない女性の社会教育主事として沖縄県の社会教育を開拓するとともに、初期の中・四国・九州地区生涯学習実践研究交流会を支えた沖縄県初代実行委員。その後中学校教頭、小学校校長を歴任。那覇市教育委員、女性問題懇話会委員等各種審議会委員として活発に発言を続けている。平成20年より沖縄県婦人連合会会長に就任。全国地域婦人会の大会宣言に沖縄の教科書問題を挿入する事に全力を傾け、会員の圧倒的支持を得ている。

登壇者 ● 林 義高

(FM長門ディスクジョッキー)



長く「ながと絵画クラブ」代表を務めるかたわら、地域FMアクアで毎日曜日に「人生各駅停車」、毎火曜日に「火曜園芸」をテーマにシルバージョッキーの放送を受け持っている。長門市社会教育委員ならびに図書館、公民館の企画・運営の委員を務め、合わせて「読み聞かせ」を始め図書館を核とした各種ボランティア活動をしている。長門市の公民館サークルに呼びかけて子育て支援事業「わくわく土曜塾」を企画・設立し、3年目の活動を展開している。

登壇者 ● 森 一郎

(直方市中央公民館ふれあい交流コーディネーター)



小学校校長を退職後、平成10年度から「直方・鞍手地区ふくおか高齢者大学」のコーディネーターとして直方市中央公民館に勤務。「高齢者にとって大切なのは社会的活動である」という信念のもとに、学校現場と社会教育の両方を知る強みを生かして、講座生を地域内の小中学校に派遣する「ふれあい交流」を推進、年間450回、延べ6,000名を超える交流実績は福岡県内でも群を抜いている。九州・日中民間文化交流協会の理事長としても活躍中である。

コーディネーター ● 三浦 清一郎

(生涯学習・社会システム研究者)



国立社会教育研修所、文科省、福岡教育大学などを経て現在三浦清一郎事務所を設立。自治体、学校の顧問などを務めるかたわら生涯学習通信「風の便り」編集長。近著に「子育て支援の方法と少年教育の原点」(H18)、「The Active Senior — 安楽余生論の落とし穴」(H19)、「しつけの回復、教えることの復権」(H20)、「変わってしまった女、変わりたくない男(男女共同参画ノート)」(H21) (いずれも学文社)がある。